

囲いわなによるエゾシカ捕獲の手引き ～草地適用型囲いわなの紹介～

【背景】

- 北海道では、捕獲によるエゾシカの個体数管理を実施。
- 捕獲の大部分は銃器によるものだが、銃器の使用が困難な時間帯や場所でも、効率的に捕獲を行うため、わなによる捕獲の推進が必要。
- 特に囲いわなは、一度に複数頭のエゾシカを生きのまま捕獲可能なため、食肉利用に当たり有効な手法。

【概要】

- 道総研（エネルギー・環境・地質研究所、林業試験場、工業試験場）、酪農学園大学及び北海道環境生活部環境局自然環境課との共同で作成（令和3年（2021年）2月発行）。
- 市町村や地域協議会等の鳥獣被害対策担当者の方々が、囲いわなを利用して効果的なエゾシカ捕獲ができるよう、囲いわなの仕組みや運用方法について取りまとめ。
- 非積雪期の牧草地に適用できる新技術の「草地適用型囲いわな」についても紹介。

第1章 囲いわなとは？

第1章 囲いわなとは？

囲いわなとは、主に獣類の捕獲に用いられるわなで「鳥獣自らの動作又は人の操作により鳥獣を閉じ込めて捕えるわなで、上面を除く周囲を杭、柵、壁面等により囲い込んだもの」をいいます（写真 1-1）。箱わなと構造が似ていますが、天井がないという点で異なります。

銃器に比べて安全性が高く、夜間の捕獲が可能であること、一度に複数頭のコウモリを生きのまま捕獲（生体捕獲）できるため、エゾシカを利活用しやすいというメリットがあります。一方で設置場所の制約が多いこと、設置や撤去にかかる労力や費用が大きいためデメリットもあります（図 1-1）。



写真 1-1 囲いわなの全景

メリット

- ✓ 安全性が高く、夜間の捕獲が可能
- ✓ 複数頭のコウモリを生きのまま捕獲できるため、シカ肉を利活用しやすい

⇄

デメリット

- ✓ 設置場所の制約が多い
- ✓ 設置・撤去にかかる労力や費用が大きい

図 1-1 囲いわなのメリットとデメリット

北海道立総合研究機構・酪農学園大学・北海道環境生活部自然環境課 3

図 囲いわなによるエゾシカ捕獲の手引き（抜粋）

囲いわなによるエゾシカ捕獲の手引き～草地適用型囲いわなの紹介～
ダウンロードページ

http://www.hro.or.jp/list/industrial/research/eeg/development/publications/reports/links/manual_kakoiwana.pdf (A4版 全56ページ：3.3MB)